

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200539		
法人名	社会福祉法人 愛 世 会		
事業所名	グループホーム センチュリー21		
所在地	山口県宇部市大字山中126番1		
自己評価作成日	令和3年 9月13日	評価結果市町受理日	令和4年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・防犯カメラの設置 ・母体施設である特養からの応援体制が整備されている ・特養主任看護師がグループホーム担当看護師なので24時間オンコール対応が可能 ・状況により直節嘱託医に連絡をとり指示を受けている ・毎月発送のグループホーム便りには、管理者のコメントを添えている ・1日3食入居者と一緒に食事作りをして同じものを一緒に食べている ・食事の準備や配膳、下膳、食洗など入居者が率先して行っている ・入居者に応じた食事形態で提供している ・毎月のグループホーム会議には、特養栄養士にも参加してもらい相談やアドバイスなどの支援を受けている ・コロナ禍の中、入居者と職員だけで特養合同で夏祭りや敬老祝賀会、クリスマス会、餅つき大会など季節の行事を行っている ・朝食には、週に2～3回ホームペーカーで作った焼きたてのパンを提供している ・食事準備の際、個別のトレーの並べ方などわかりやすく壁に貼付している誰でも率先してできるようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事づくりは、女性の利用者が、これまでの暮らしの中で最も取り組んでこられたことであり、力を発揮できることでもあることから、事業所では三食とも、利用者と一緒に手作りで食事づくりをしておられます。利用者の好きなもの、食べたいものを聞かれて、献立を立てられ、拠点の栄養士の助言を受けて、食べやすいように形態の工夫と個人用食器を使って食欲が湧くように工夫をしておられます。利用者がわかりやすいように食事づくりの手順等を壁に貼って皆で取り組めるようにしておられます。利用者は米を研ぐ、野菜の下ごしらえ(皮むき、切るなど)、野菜を炒める、盛り付けと一連の過程を、一人ひとりが役割として受け止められており、職員と一緒に楽しく取り組んでおられます。職員は介助するだけでなく、利用者と一緒に同じテーブルを囲んで同じものを楽しく食べておられます。事業所では、利用者が常に、ゆっくり、一緒に、楽しく暮らせるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間の壁に「ゆっくり・一緒に・楽しく」を貼付して共有している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して職員間で共有している。カンファレンス時には理念の「ゆっくり・一緒に・楽しく」利用者が暮らしているかを話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、ほとんど外出はしていない為、施設内で母体施設の入居者と日常的に交流している	令和3年4月1日から、センチュリー21を拠点とした自治会は、廃止となっているが、従来通り、地元校区や地域と連携して、施設の運営に取り組んでいる。拠点施設で開いている行事にはコロナ禍の為、地域住民への呼びかけはしていない。利用者は拠点施設主催の夏祭りや敬老祝賀会、クリスマス会、餅つき大会に参加して、他施設の入居者や職員と交流している。市広報は届いているが、小野地区の行事は中止となっている。月1回、地域から美容師の来訪があり、利用している。ボランティアの来訪と小中学生の「ふれあい学習体験」は待ってもらっている。拠点施設内の利用者や職員とは、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、地域の人々に向けての発信は特に行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価実施時には、職員全体で自己評価に取り組み改善すべきことがあれば上司と共に改善している	管理者は、職員に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布し、職員1名が5項目を担当して記入してもらい、まとめている。これまで自己評価項目を職員が1人で取り組んだことはなく、今回、初めて一人ひとりで取り組んでいる。管理者は、職員が各評価項目を理解していると感じている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、自己評価への取り組みや、応急手当や初期対応の訓練を研修委員会を中心に、誤嚥時と転倒時の対応について、事例を基に実践研修を実施するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍によりすべて文書開催とし状況報告等を行っているが特に意見等はなかった	会議は年6回、開催している。コロナ禍の為、入居者情報と利用者の日常生活の様子、事故報告、年度当初の運営方針、行事予定等を文書で郵送で報告している。意見は電話で聞いている。家族からはコロナ禍での職員への労いが寄せられている。	・運営推進会議時の情報提供の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新の際、介護予防の認定を受け契約書を更新したが担当者に相談して「契約は有効です」の文言を契約書に補足し介護予防に変更になっても契約を更新しなくても済むように行った	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出かけて、情報交換や運営上の疑義について相談し、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換を行い連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームがどのような施設であるかということを理解した上で利用者一人ひとりにあったケアを見つけ安全を第一に取り組んでいる	職員は「身体拘束廃止に関する指針」を基に法人研修(身体拘束、虐待について、スピーチロック、フィジカルロック、ドラッグロックなど)や、3か月毎に開催している「身体拘束廃止委員会」への管理者の出席報告の事例で学び、身体拘束、虐待の内容や弊害について理解している。外出したい利用者は、2階の特別養護老人ホームの廊下が自由に散歩ができることから、いつも自由に廊下を散歩をして、気分転換をしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修などがあるので、どのようなことが虐待に繋がるかということを理解するようにしてケアに努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している方はおられないが、必要になれば支援に努めていく		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時には「重要事項説明書」「重度化した場合における対応に係る指針」「自己評価・外部評価結果」等の説明も一緒に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情等は母体施設事務所(法人事務所)でも受け付けている。特養施設長、相談員と共に解決を図り運営推進会議でも報告している。そして運営に反映させている	苦情や相談の受付体制、第三者委員、その他の相談機関を明示し、契約時に家族に説明をしている。家族からの意見や要望は、面会(会議室で10分間)時や運営推進会議文書報告時、電話等で聞いている。毎月、家族宛に管理者と職員の利用者への気づきを記録した「グループホーム便り」を送付し、意見が言いやすいように工夫している。家族からは「労いと感謝」が多く寄せられている。個別の要望(果物が好きな利用者に好きな時間に果物を食べることができるように冷蔵庫を設置するなど)については「個別入居記録」に記録して職員間で共有し、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を尊重しそしてサービスの低下に繋がらないようにすぐに話し合う時間を設けるようにしている	管理者は、月1回のグループホーム会議や係業務(研修、行事、広報)、日常業務の中で聞いている他、随時、面談を実施して職員からの意見や提案を聞いている。職員からは就業規則についてや有給休暇の希望等があり、今回、就業規則(夜勤や早出、日勤の時間や方法等)の見直しをするなど、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度「就業規則」「給与規定」などの改定があった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員が中心となって毎年グループホーム独自の勉強会を実施している。今年は事例を元に職員全員が参加できるように2回に分けて行った	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。コロナ禍の為参加はしていない。法人研修は、毎月1回、各事業所の研修委員が年間計画を立て、拠点施設の職員が講師となって、拠点の会議室で、施設の倫理や褥瘡予防、食中毒予防、介護事故防止、防災、減災対策、虐待防止対策、認知症等について実施している。内部研修は、年2回、研修委員を指導者に「転倒時の応急手当と初期対応」「骨折の対応」について実施している。新人職員は日々の業務の中で、管理者や先輩職員から介護の知識や技術を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会に入会しているがコロナ禍ということもありまた市街で行われるということで学習会には参加していない		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の時から関係作りを意識して信頼関係が築けるような対応に努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族から思いなどを受け止めて安心に繋がるような関係づくりに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用については、考えていない		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自発的に食事の準備が出来て利用者が声を掛け合って協力しながら作業をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは何かあった時には、話し合いができる関係作りを意識している。また家族に会えた時には日頃の様子なども伝えている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止の為、外部との接触ができないので行っていない	面会制限のある中でも家族との短時間の面会を工夫し、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの美容院から、毎月1回来訪があり利用している。入浴時や食事の後にコーヒーを飲みながら、昔話や懐かしい場所の話など、職員の会話を通して、馴染みの人や場所の話ができるように支援している。利用者同士で学生時代や商店、地域行事等の話で盛り上がる事が多くある。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し食事の際の席や掃除、台所作業など職員を交えながら気の合う同士で生活できるように努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談や要望があるときには、支援に努めるように心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に沿えるように一人ひとりの出来ることなど聞きながら出来ることをしてもらっている	入居時には、アセスメントシートを活用して、これまでの暮らしやこれからの希望、趣味、嗜好、好きなこと、できることなどを記録して、思いの把握に努め、活用している。日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、行動を総合ケース記録に記録して思いや意向の把握に努め、主要なことは業務日誌や連絡帳に記録して、職員間で共有し支援につなげている。困難な場合は、家族からの情報や職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との会話の中で把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のレクリエーションの時に、今日の体調などを聞いて1日を始めるようにしている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何かあればすぐにカンファレンスを開いている。そして3か月毎のモニタリングにも努め現状に即した介護計画作成にも努めている	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、利用者や家族の意向を参考にし、随時、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の意向に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有したい時には、電子カルテなのでわかりやすピックアップして各職員が確認できるようにしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの職員で、サービス提供に組み込み対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者もコロナの事は理解されている中、外部との接触を控えることにより安全安心な豊かな暮らしが継続出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎年健康診断を受けている。また週に2回母体施設の特養に往診に来られそれ以外でも必要な時には必要な医療を受けられる体制になっている</p>	<p>本人及び家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、週2回、訪問診療を受けている。歯科は必要に応じて訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。受診時には紹介状を持参し、受診結果は介護記録に記録して職員間で共有している。家族には電話で報告している。事業所の看護師が健康観察を行い、緊急時には看護師や協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>特養の主任看護師がグループホーム担当看護師なので何かあれば24時間オンコールの体制で看護を受けられている</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>地域連携室へ電話を入れ情報収集に努め状況により話し合いをしたりして関係づくりに努めている</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の段階で看取りは行っていないことを伝えグループホームでの生活が難しくなった場合母体施設の特養への入居が出来ることを説明している</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、契約時に家族に事業所のできる対応について説明をして同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、主治医や関係者で話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	年に1度研修委員を中心に勉強会を行っている。今年は8月13日16日の2日間で行い事例を元に「転倒時の応急手当と初期対応の仕方について」を実施した。その後事故にはならない程度の転倒があった時には対応の仕方に勉強会の成果があったと実感した	事例が生じた場合は、「事故報告書」、「ヒヤリハット報告書」に発生場所や発生時の状況、原因分析、再発防止策等を記録して、その場で話し合い、朝夕の申し送りでも共有し、介護計画に反映して一人ひとりの事故防止に努めている。内部研修で年2回、「転倒時の応急手当と初期対応」「骨折」についての研修とヒヤリハットや事故報告の事例を基に誤嚥や転倒について実践研修を実施している。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設の特養と合同で、「夜勤の場合」「日勤の場合」「風水害の場合」と区別して実施している。コロナ禍でもあるので職員のみで行った	拠点施設と合同で年3回、防火管理者を中心に、昼夜の火災と風水害を想定した通報訓練と避難訓練、避難経路の確認、消火訓練を利用者も参加して実施している。拠点施設の周辺に民家は少なく、夜間は拠点施設全体で6人の職員が勤務し協力体制を築いている。非常用食品は拠点施設で備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に身体介護などの場合、その人の居室で行ったりトイレの誘導などは、大きな声で声掛けしないように言葉かけや対応の仕方に気を付けている	職員は法人研修「倫理規定やプライバシー」や、管理者の「排泄介助時の言葉かけの仕方」の指導を通して学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報の取り扱いに注意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に話をしている時に、今何を思っているか何をしようとしているか時には、目を合わせながらコミュニケーションを図っている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそえるよう一人ひとりの意見を聞きながらその人にあった支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば衣服・化粧品・ヘアカラーなど購入しその人らしい生活を送れるように支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞いたりして献立をたてて食事はホームで全食作っている。個別の形態で刻みにしたりミキサーにしたりして提供もしている。職員と一緒に楽しみながら食事をしている	利用者の好みを聞いて栄養士の助言を得て献立を立て、三食とも事業所で食事づくりをしている。食べやすいように形態の工夫(つぶす、刻む、とろみをつけるなど)や個人用の食器、箸、湯飲みを使用して食欲がわくように工夫している。利用者は米を研ぐ、野菜の下ごしらえ(皮むき、切るなど)、野菜を炒める、盛り付け、トレイを拭く、箸を並べる、お茶を汲む、袋にお茶を入れる、食器を洗うなど、できることを職員と一緒にしている。食事中は静かに音楽を流し、利用者と職員は同じテーブルについて同じものを食べている。週2、3回は事業所でパンを焼いて焼き立てのものを提供している。ケーキの付く誕生日食、外庭での食事、季節行事食(恵方巻、節句の寿司、餅つきなど)、食後のコーヒーなど、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量などは一定にしているが、希望があれば少なくしたりその人の形態での提供をしている。水分に関してはお茶、コーヒー、ジュースなど活用しているが夏はそれ以外に薄めたポカリスエットを熱中症対策として朝(掃除の後)昼(入浴前)夕の3回摂取してもらっている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けする方、誘導して見守る方と個々に応じて実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便に時間がかかる方に対しては、トイレが混み合うので、自室でのPTトイレを使用してもらいゆっくり人を気にせず座ってもらっている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	デザートに寒天を取り入れたり御飯に雑穀米を使用してみたりある入居者にはオリゴ糖を使ったりと気にかけて取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回13時30分開始。入浴剤を使用し個人のペースでゆっくり入ってもらっている	入浴時間は13時30分から16時までとし、週3回は入浴してもらうように支援している。順番や湯加減、入浴剤の利用、季節のゆず湯等、一人ひとりの希望に応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態や生活歴(入浴習慣等)に合わせて清拭や部分浴、入浴習慣の無い利用者が入浴できるようになるなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣や意思を確認し休息の支援をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬のチェックシートで3段階のチェックを行い薬の変更も誰が見てもわかるように記録して気付きがあれば上司や看護師に報告相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーのお好きな方が多いので食後のコーヒーを提供している。時にはチョコレートを含えたりすると大変喜ばれます	清掃(モップを使う、掃く、拭く)、カーテンの開閉、リネン交換(シーツ、枕カバー)、カレンダーの日めくり、米を研ぐ、野菜の下ごしらえ、野菜を炒める、盛り付け、トレイ拭き、お茶を汲む、お茶の葉の袋詰め、食器を洗う、柿を剥く、テレビ視聴、本や雑誌、新聞を読む、歌を歌う、カラオケ、トランプ、折り紙、クリスマス飾りづくり、ぬりえ、体操(ラジオ、老人、口腔)、廊下の散歩、拠点施設の季節行事(夏祭り、敬老会、クリスマス会、餅つきなど)など、利用者一人ひとりに合わせた活躍できる場面づくりや楽しみごとをつくり、支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為ほとんど外出はできていないが、お天気の良いときは外庭や中庭などでレクリエーションや体操、花見など行っている	拠点施設敷地内の散歩や体操、施設内廊下の散歩、季節の花見(桜、つつじ、チューリップ、コスモス)、ドライブ(きらら道の駅)、中庭でのレクリエーション(体操、クイズ、風船遊び)など、お天気の良い日は戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因になったりお金を自分で使ったりする機会がない為家族と話し合い所持してもらっていない		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家族に電話したい」「声が聞きたい」等訴えがあったとき、事務所の電話でかけてもらっている。また子供さんからの手紙なども取り次いで支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度計でエアコンの調整に心掛け快適に過ごせるようにしている。音楽や懐かしい曲を流して穏やかに過ごしてもらっている	全員が集う居間は大きな窓からの自然光で明るく、室内には季節の花を飾り、壁面には利用者の作品やカレンダーが飾ってある。テレビの前には全員が見ることができるように、ソファや椅子を配置してある。台所からは調理の音や匂いがして、生活感を感じることができる。温度や湿度、定期的に換気をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席は気の合う人同士を近くにしておしゃべりしやすいようにしている。テレビの前のソファやトイレを待つ椅子等も2人以上座れるようにして気分良く過ごせるように配慮している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・テレビ・ソファ等使い慣れたものを持ち込んでも良いことを伝え使用されている	居室の入り口には本人の部屋とわかるように、本人お気に入りの人形や手作りの作品を飾っている。タンスや衣装ケース、テレビ、テレビラック、机、椅子、仏壇、時計、温湿度計、新聞、雑誌、アルバム、ポータブルトイレ、冷蔵庫等、使い慣れたものや好みものを持ち込み、家族や自分の写真やカレンダーなどを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態からシルバーカーや歩行器を利用し安全かつ少しでも自立した生活が送れるように支援している		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム センチュリー21

作成日: 令和 4 年 2 月 24 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (15)	全職員が実践力を確実に身につける為、応急手当や初期対応の定期的勉強会を継続する	研修委員も交替するようにしているので、毎年の勉強会は継続していき事例があれば振り返りながら話し合っていくことで職員の質の向上や転倒などの防止にも繋げていきたい	「転倒時の応急手当と初期対応の仕方」を忘れないようにしばらくは同じテーマの勉強会を実施していき事例があればそれについても振り返りの勉強会を並行して行っていく	12ヶ月
2	5 (4)	運営推進会議時の情報提供の検討	具体的に項目別に進行していき委員からの意見等を募っていく	現状報告だけでなく活動報告、利用者状況、ヒヤリハット、事故報告、苦情報告等を示す。そして通常開催の時には、個別に意見等を募る。文書開催の時には、意見記入用紙と当施設あての封筒を同封して送付する	随時
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。